

小豆島町教育大綱（案）のパブリックコメントに対する検討結果

番号	意見の内容	検討結果
1番	<p>19頁 （3）各施設の利用拡大と活用</p> <p>現在、小豆島勤労青少年ホームには常勤の指導員も職員もない現状で利用者の拡大が図れるのか。現在行われているのは町内の卓球愛好家が「卓球教室」を不定期で開催しているのみである。</p> <p>これを実施するために常勤の職員を必要とするが、その人員は確保できるのか。</p> <p>昭和49年の開設以来、西村公民館と併用で専任の職員もいなく、公民館が幼稚園の跡地に移転した後は十分な管理ができていない現状で、職員定員を増やさない限り、これ以上の活用は難しい。40年間十分に活用されていない施設の在り方を先に検討するべきです。</p> <p>（別件です。）</p> <p>なお、21頁の下から10行目の「レクリエーションはレクリエーションでは・・・（小文字のIが大文字のEでは）</p> <p>21ページ下から9行目のウォークはウォークでは・・・ウォークとオを小文字でも使いますが、歩く行事などの際はウォークとオは大文字を使用します。</p>	<p>小豆島勤労青少年ホームの現状については、ご指摘のとおりです。</p> <p>常任の職員はいませんが、現在の体制で魅力ある教室・講座の開設に努めたいと考えています。</p> <p>施設のあり方については、施設の存続も含めて、今後の検討課題とさせていただきます。</p> <p>レクリエーションに修正します。</p> <p>ウォークで統一した表記にしています。</p>
	<p>22頁 （3）スポーツ活動がしやすい環境づくりの推進</p> <p>B&G海洋センターは・・・</p> <p>総合型のスポーツクラブに向けた取組を推進・・・とありますが小豆島で一番最初にできた総合型のスポーツクラブでありながら（2008年9月結成・名称：オリーブ100）このクラブ名で活動したことはありますか。担当職員はいますか。（事務所はB&Gで登録されています。）町内の各スポーツクラブに声をかけることなく、休眠状態のスポーツクラブにこれ以上の期待ができません。それとも公認指導員を養成してそれに当たらせてみますか。</p> <p>町内には、日本体育協会の各種目別の公認指導者が数多くいますが、その人たちの活用もありませんし、連絡もありません。</p> <p>町内の各種目別の公認指導者の名簿さえ持っていないのではありませんか。</p> <p>B&G財団の公認指導者2名の常勤が必要なB&G内海洋センターにも常勤指導者が不在で、社会教育課との兼任でその兼任している職員は沖縄での指導者講習を受けていません。</p> <p>こんな状態で「スポーツ活動がしやすい環境づくりの推進」が十分にできますか。</p>	<p>B&G海洋センターの現状は、ご指摘のとおりです。</p> <p>指導者講習は、異動により受講した職員が不在になったものであり、今後、担当職員が受講できるようにしたいと考えています。</p> <p>常勤指導者は、限られた職員配置の中では困難であるため、現在の体制で、施設の有効利用を促進してまいります。</p>

	教育委員会が責任もってこの事業に当たるのなら、B&Gや勤労青少年ホーム・勤労者体育館・池田体育館・吉田キャンプ場などは外部委託すればいかがですか。その方が計画通りの成果が出ると思います。	
2番	Ⅲ-1 教育目標ふるさとを愛し、人間性豊かで、たくましく未来に生きる人づくり 大変良いと思います。特に「ふるさとを愛し」の部分は、家族を愛し、地域社会の人々を愛し、国を愛する事に繋がって行くものだと思います。 高校を出ると若い人がどんどん島外に出て行きます。 受け皿がないという問題もありますが、ふるさとを愛する心があれば、島に帰ってくる若者も増えるのではないかと思います。 我が家にも、東京に行って帰ってこない息子がいますのでうんぬん言う資格がないのかも知れませんが。	教育目標である、ふるさとを愛し、人間性豊かで、たくましく未来に生きる人づくりに努めてまいります。
	Ⅲ-3-(4) 社会連帯の意識を養い、郷土を愛する心を育てる 教育目標と同様に、重要な事だと思います。前に向けて進めていただきたいと思います。	社会連帯の意識を養い、郷土を愛する心を育てる取組を推進いたします。
	Ⅳ-3-(1) 学校等の適正配置（統廃合を含む）小豆島中学校の移転、内海地区の小学校の統合、内海地区認定こども園を推進する。 内海地区認定こども園の推進は、専門から見ての見解は分かりませんが、幼稚園に行く子供の数を見てみるとやらざるを得ないのかなと思います。 ただ、草壁、苗羽、安田の幼稚園と、苗羽保育園を統合して内海地区認定こども園を作る計画が、苗羽幼稚園と苗羽保育園の統合に縮小されているのは問題だと思います。 (かつて安田に持ってくるという話があり、地権者との話し合いまで出来ていたようですが、横やりが入って苗羽に代わった経緯があると聞いています。場所については納得出来ません。)	内海地区認定こども園については、苗羽小学校を候補地として、検討を進めていきたいと考えています。 また、今後については、各幼稚園、保育所に統合を検討する組織を設置し、ご意見を伺ってまいります。
	内海地区の小学校の統合については絶対反対です。 坂下前町長は、内海地区の小学校を統合するという方針でした。 塩田町長に代わり、小学校は地域の伝統に触れることが大切であり3校を残す、中学校は競争の原理が必要なので統合するという方針に変わりました。 今になって何故小学校を統合するという方針に変わったのは大変不可思議です。 地域社会と触れ合い、つながり、伝統を学ぶ事は、郷土を愛する心を育てるためにも非常に大切な事だと思います。	小学校統合の方向性は、総合教育会議及び町議会で検討・協議を行った結果です。 また、ご意見にあるとおり、すべての幼・保、小、中学校での説明会、公民館区ごとの町政懇談会を開催し、ご意見を伺っています。 今後は、内海地区の小学校の統合について、各学校に統合対策協議会を設置し、進めていきたいと考えています。

	<p>たとえば、苗羽小学校の音楽、安田小学校の東条農業集団との交流・安田踊りの伝承等々があります。各地区の運動会にも小学校が参加しています。</p> <p>小学校が地区のシンボルであり、ある意味で、地区の要になっています。</p> <p>3つの小学校を統合する事により、地域とのつながりが無くなってしまい、郷土を愛する心を育てる教育などお題目になってしまいます。</p> <p>小学校の統合は、縮小しつつある各地区の活気を取ってしまい、各地区を一層衰退させる突破口になる可能性もあります。また、統合する事により、先生はじめ職員の雇用が失われます。</p> <p>先生方も、島では仕事が無くなり島外での勤務となり、島を出て高松等へ移住される先生も出て来ます。人口減が進む小豆島町にとっては慎むべき事だと思います。地域社会の衰退を押さえるためにも、郷土を愛する心を育てる教育を行うためにも、内海地区の3小学校の統合は、当面、行うべきではないと思います。3校の生徒が減り、複式学級にしなければならなくなった時点で、小学校の統合を考えるべきだと思います。</p> <p>土庄町の小学校は1つに統合されましたが、土庄町の小学校は、旧土庄小学校、湊崎小学校を除いて、複式学級にしなければ成り立たなくなったので統合したと聞いています。小豆島町は、3校とも複式学級にする必要がありませんので、土庄町の状況とは全く違い、統合の必要はないと思います。</p> <p>最後に、統合へのプロセスです。どこでどのような議論がなされ統合するという結論に至ったのか、いつもの事ですが全く見えません。</p> <p>各地区で説明会を行い賛同を得たという事ですが、PTAを中心とした少ない人数に説明し反対が無かったから、町政懇談会で少人数の参加者に説明し反対が無かったから住民の賛同を得たと言うのは独善的すぎます。もっと多くの方の意見を聞いて結論を出すべきです。独裁とは言いませんが、独善的で非民主的な決定プロセスです。パブリックコメントを求められる機会がありますが、意見が反映される事はなく、当局のスタンスは江戸時代と一緒に「聞き置く」です。</p> <p>小豆島町教育大綱についての意見を募集していただき有難く思っています。</p> <p>「聞き置く」ではなく、意見を反映させていただきよう希望します。</p>	<p>統合後の小学校においても、地域とのつながりは大切であることから、家庭・地域の教育力の向上の取組として記載しています。</p> <p>総合的な学習の時間等を活用し、これまでどおり地域の伝統・文化、地場産業について学ぶ機会を確保します。</p>
3番	<p>1 「国際教育」の推進</p> <p>英語を流暢に話ができる「国際人」を育てるのではなく、日本の歴史や文化を深く理解して発言、行動ができる「国際派日本人」を育てるという視点が見られません。英語教育は国際教育の中のほんの一部分にすぎません。英語教育はもちろん重要な柱でしょうが、「未来に生きる人づくり」という教育目標を掲げているのだから、広く国際教育を推進して、グローバル化の進む世界の中で活躍する日本人を育</p>	<p>8 ページ(4)ー②ーウに、国際理解の視点に立った教育活動の推進について、記載しています。</p> <p>限られた時間数の中での取組であるため、案の表現となっていますが、今後の課題とさせていただきます。</p>

<p>ることが必要です。「総合的な学習の時間の充実」の項に記述している「国際理解を深める実践」にとどまるのではなく、そこからさらに発展させた教育活動の推進を表記すべきです。一昔前は「国際理解教育」と言っていましたが、今は「国際教育」と表現するのが一般的です。</p>	
<p>2 「平井兵左衛門」を学ぶ取組</p> <p>「郷土を愛する心を育てる」ために「わたしたちの郷土 小豆島」の活用が示されています。この副読本の中には壺井栄をはじめとする郷土の人物が紹介されており、子どもたちにとって適切な教材となっています。一方で、「文化・芸術の振興」の項には、名前を示して壺井栄の他にも黒島伝治・壺井繁治再発見についての記述があります。郷土の作家について再発見しようという取組は支持しますが、名前を載せるのであれば、島の人たちのために自ら犠牲になって行動した郷土の義人・平井兵左衛門の生き様を学ぶ実践は小豆島町の子どもたちにとっては、最も適切な事例です。もちろん黒島伝治・壺井繁治も素晴らしい人たちですが、「人間尊重の精神を養う」という教育方針を掲げるならば、小豆島町だからこそ、平井兵左衛門を学ぶ取組の推進を明示すべきです。</p>	<p>池田小学校では、これまでに総合的な学習の時間を活用して、平井兵左衛門について学ぶ機会を設けたことがありますが、時間数の関係で毎年実施できておりません。今後の課題とさせていただきます。</p>
<p>3 「一斉読書活動」の推進</p> <p>読書活動については、「豊かな心を育てるための文化活動の推進」の項に「本の読み聞かせをしたりする」、「図書館活動の充実」の項に「読み聞かせ等の支援を行う」と記述してあるのみで、子どもたちの受動的な読書に偏っています。「学ぶ意欲を高める」という教育方針であるなら、学ぶうえで基本となる子どもたち自らが本を読む活動を充実させる取組を表記すべきです。町内のいくつかの小学校で実践しているような、朝の活動時に曜日ごとに日替わりで行う総花的な活動ではなく、例えば池田小学校で実践しているような毎朝全校一斉読書の時間を設定して、集中して読書活動をするといった取組の推進が「学ぶ意欲を高める」にあたって大きな効果が期待できると確信しています。</p>	<p>一斉読書については、池田小学校、星城小学校及び安田小学校は毎日実施しています。苗羽小学校及び小豆島中学校においても、朝会等以外の日は、毎日実施しています。</p>
<p>4 「清掃活動」「あいさつ運動」など日常の基本的な学校生活を重視した取組</p> <p>「ボランティア精神の涵養」の項で、「体験活動の実践、地域行事への参加、社会福祉施設の訪問」が示されています。校外に出て行きボランティア活動に積極的にかかわるように努めることは有意義ですが、その前に学校生活における清掃などの日常活動において、自ら考え工夫しながら集中して清掃して「心を磨く」取組を推進することの方が重要です。集中した読書活動と同じく、これがすべての教育活動にいい影響を与えつなげていきます。このことを明記すべきです。</p>	<p>清掃活動、あいさつ運動については、すべての学校で実施しています。学校によっては、無言清掃や児童・生徒による自主的なあいさつ運動に取り組んでいます。なお、大綱に記載はしていませんが、各学校の指導方針には記載しています。</p>
<p>5 「わが国を愛する心を育てる教育」の推進</p> <p>「人間尊重（心）の教育の実践」の項に、「郷土の文化や伝統を大切に育てる態度の育成」が記述されて</p>	<p>義務教育の目標として、学校教育法第 21 条第 3 項で、我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝</p>

<p>いますが、「郷土を愛する心を育てる」ことからさらに発展して、わが国を愛する心を育てることが現在の教育における最重要課題の一つです。このことを表記すべきです。今の時期だからこそ尖閣諸島、竹島、北方領土問題、さらには北朝鮮により拉致されている人たちの人権問題を学校教育の中でしっかりと学ぶことが求められています。教育大綱の中に、これらの問題を理解するうえでの基本となる「国を愛する心の育成」を載せるべきです。森友学園のような事例が明らかになりましたが、載せることを躊躇して一切記述しないのはかえって不自然であり、自治体としての姿勢が問われる教育内容です。</p>	<p>統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこととなっていますので、これを尊重した教育を実践することは当然のことと思います。これを踏まえての「ふるさと教育」であり、ふるさと教育が「我が国を愛する態度を養う」ことに繋がると考えています。</p>
<p>6 「小豆島町学校教育研究会の活性化」についての意見</p> <p>29年4月から小豆島中央高校が開校することは以前から周知のことなので、現時点で土庄町と小豆島町の学校教育研究会は、幼・保、小、中、高校までの一貫した長期的な教育に取り組む新生研究会発足について協議を済ませ、4月から合同で研修会を実施する体制を整えているべきです。両町の研究会代表者と高校とが協議し教育委員会が了承すれば結論はすぐに出ることで、今からそれに向かって努力していくという教育大綱では、悠長すぎます。</p>	<p>ご指摘の研究会については、大綱（案）策定後に県教委及び土庄町と協議を行い、29年度に組織づくりを行うことで合意しています。</p> <p>4月以降早い段階で、新しい高校の体制の下、協議を進め、一貫教育を推進することを2ページ2(1)に追加修正します。</p>
<p>7 「言葉の文化を継承する意識」の醸成</p> <p>「ふるさとを愛し」という教育目標にもとづいて、様々な取組が記述されています。「文化財の保護と活用」や「情操を豊かにする自然体験、芸術文化活動の充実とふるさとを愛する心の育成」の項とも関連しますが、小豆島で古くから伝わる言葉の文化を後世に継続して伝えていく意識を持つ子どもを育成することを要請します。</p> <p>一つの例として、地名の発音・アクセントがあります。いわゆる方言特有の語彙である俚言は、時の変遷により使われなくなり消滅してしまいましたが、常に使われ呼ばれている地名の名称は、集落がなくなる限り残る言葉です。</p> <p>その中でも代表的な地名「小豆島」は、島の人たちは古くから「<u>ショウ</u> ドシマ」というアクセントで発音してきました。最初の2音を高く強く言うアクセントです。他の地名も同様で、内海、福田、坂手、安田、西村、池田などすべて最初の2音を高く強く発音するアクセントが、島に伝わる言葉の文化です。例えば「内海」は「ウチノミ」ではなく「<u>ウチ</u>ノミ」なのです。ところが、NHKは昭和40年代に、放送の際に参照する「アクセント辞典」の中に、それまで決めていなかった地名のアクセントを新規に追加しました。2音の後に「島」がくる名称は、すべて一律に「<u>〇〇</u>シマ」と決めたため、</p>	<p>ご指摘のことについては、今後の検討課題とさせていただきます。</p>

	<p>「小豆島」を発音するときは、「ショウ^ードシマ」という言い方が以降半世紀にわたって放送され続けてきました。その影響で今では、小豆島町の児童・生徒はもちろん若年層は皆「シマ」の前の2音目の「ド」を高く発音する「ショウ^ードシマ」という言い方をしています。言葉の文化が壊された状況です。30～40歳代の住民も同じように発音しますが、本当は「ショウ^ードシマ」と言うのだと理解している人もいます。どちらのアクセントが正解なのか？ということではありませんが、少なくとも、この島で継承されてきた言葉の文化は私たちが守って次の世代に繋げていく義務があります。</p> <p>子どもたちには言葉の文化を守る意識を持たせ、町長を筆頭に町職員などは安易に「ショウ^ードシマ」という言い方をせず、率先して「ショウ^ードシマ」というアクセントを使い、島外からの観光客などにアピールすべきです。「小豆島中央病院」「小豆島中央高校」など「小豆島」のあとでいったん切れる名称は「ショウ^ードシマ」というアクセントで発音できるので、これらも安易に「ショウ^ードシマ」と言わないようにしたいものです。こういったことを意識させることが、郷土の伝統的な文化に誇りを持つ子どもを育成することに繋がるのです。</p>	
	<p>8 「小豆島中学校の移転」についての意見</p> <p>小豆島中学校の移転が示されていますが、小豆島高校跡地への移転について県は了承しているのでしょうか？順序が逆ではないでしょうか？県が承諾していない段階での案であれば、それは「机上の空論」「絵に描いた餅」ということになります。いつ、誰が、どのような条件で交渉するのか？をはっきり示すべきです。</p>	<p>小豆島高校跡地の活用については、県教委と協議している段階ですが、最終的には合意できるものと考えています。このため、小豆島中学校は、小豆島高校跡地に移転する方向で協議を行うとしています。</p>
4番	<p>P.1 IV 幼・保、小、中、高の一貫教育の推進について</p> <p>①幼・保、小、中、高の一貫教育の推進とありますが、最重要な課題は乳児期の育て方が最も重要な問題です。三つ子の魂百までと格言がありますが、もし、乳児期の育て方によって人格の基礎が出来るとしたならば、そのわずか3～4年の間の育児に手抜きをしては、一生大きな禍根を残すこととなります。私は四人の子育てをしましたが、原則として、オムツは一日でも早く外すこと。そして、乳児の時から本の読み聞かせをすること。この事を行なう事によって、長男も次男も高校卒業時には首席で卒業させることが出来ました。そして長男は東京芸大へ、次男は大阪大学へと進学させることが出来ました。</p> <p>次に、資料として送りますが、現在紙オムツの使用によりオムツ外しが非常に遅くなっています。オムツ外しは一才そこらで外せるように行政も医師も若い母親に教えるべきです。オムツが一日でも早く外せたならば、親も楽が出来るだけでなく、本人も一生、頭のよい子として育つことが可能となります。</p>	<p>今後の参考とさせていただきます。</p>

	<p>P.3 1 障がい者が安心して暮らせる社会の構築とありますが、今や年々、障がい児が増加の一途をたどり、一談には 10 人に 1 人の障がい者が存在するといわれていますが、問題は何が原因でこのように障がい児が増加の一途をたどっているのかということの解明し解決することが重要なことではないでしょうか。</p> <p>P.3 の③小豆地区特別支援学校の設置を推進とありますが、問題はなぜ特別支援を必要とする子供が増加の一途をたどっているのかという事を解明すれば、特別支援を必要とする子供がいなくなり、支援学級も支援学校も必要性はなくなります。</p>	<p>障がいのある児童・生徒等が増加している理由については、学校現場や保護者の理解が広がり、把握が進んだ結果という側面もあると言われていますが、明確な原因は明らかになっていない状況にあると思います。</p> <p>大綱に記載していますが、町としては、特別支援教育の充実を図ってまいりたいと考えています。</p>
	<p>P.3 2 偏見や差別のない社会の構築の中で、豊かな人権感覚の育成とありますが、まず行政が児童の権利を尊重しなければなりません。児童福祉法、第一章、第一条（児童福祉の理念）①すべての国民は児童が心身ともに健やかに生まれ且つ育成されるように努めなければならないとあります。②すべての児童は、ひとしくその生活が保障され養護されなければならないとありますが、現実には、日に日に年々に児童虐待の件数は増加の一途をたどり、行政も児童相談所の増設に追われています。先日もラジオの放送の中で大阪市は、その対応の為に増設するという事が放送されていました。第二条（児童育成の責任）国及び地方公共団体は、児童の保護者とともに、児童を心身ともに健やかに育成する責任を負う、と定められていますが、現実には発達障がい児のみならず、児童虐待により多くの児童は精神面で大きな障がいをもって成長しています。又、おねしょをする子供は今や 80 万人存在するといわれています。おねしょをする子供が成長した時には、精神的に安定した大人には成長しません。</p> <p>広報 P.14 に若竹教室の件が載っていますが、年々不登校の子供が増加の一途をたどっています。不登校の子供達は、成人となった時には、有能な人材とはなり得ません。不登校の本当の原因は何かという事を解明し、解決してあげなければ、将来は不登校の児童が増加の一途をたどります。</p>	<p>児童の権利を尊重することは、当然のことです。</p> <p>不登校については、学年によってバラツキはありますが、各学校に不登校の児童・生徒がいます。</p> <p>不登校の原因については、個々の案件によって異なり、その原因を取り除けるよう、丁寧に対応しています。</p> <p>取組については、9 ページ（4）－③－エに記載しています。</p>
	<p>子は宝です。子供は社会の宝です。子供は国の宝です。その宝である子供がボロボロになってしまいます。行政としても、責任をもって対処してください。まず、一日でも早くオムツを外すことの重要性を認識してください。紙オムツの使用は禁止してください。乳児の時から本の読み聞かせを推進して下さい。誰にでも出来ることです。そして、これから産まれて来るすべての子供が優秀な子どもに育つように指導してやって下さい。</p>	<p>今後の参考とさせていただきます。</p>
5 番	<p>標記の大綱（案）を読ませて頂きました。広い視野と新感覚が感じられ、とても良いと思います。その上で次の意見を述べさせていただきます。</p> <p>ここで示されていないもう一つの大問題は、教職員の方々の過重労働だと思います。教育の中核的担い</p>	<p>教職員の長時間労働については、大きな課題と考えています。</p> <p>早急な解決策はありませんが、学校統合もその一つの解決</p>

	<p>手である教職員が長時間労働や過重ストレスの問題を抱えていては良い教育環境になりません。対策として、いくつかの方法が考えられます。</p> <p>①20名程度の少人数学級を目指す（財政を重点配分）</p> <p>②有能な有志高齢者の活用（トラブルに対する公的救済・保証制度の整備）</p> <p>③社会全体で、多様な世代が相協力して子育てするシステムの構築（PTAの発展形）</p> <p>教職員の過重労働を改善するという切り口から、このようなことが浮かびます。教育の究極の目的は「良き社会人を育てること」の筈です。そのためにも、教職員の労働時間を短縮し、その社会参加時間の確保がとても重要だと思えます。流石に「二十四の瞳の小豆島」といわれる教育実現のためにも、教職員の方々の過重労働解消に切り込んで頂きたいと思えます。</p>	<p>の方法であると考えています。</p> <p>学校規模が大きくなり、教職員の人数が増えることは校務の軽減につながる面があります。</p> <p>また、中学校も小豆島高校跡地に移転して、学校内で部活動が実施できるようになれば、終了時間を早くできると考えています。</p> <p>高齢者や PTA の活用につきましては、有効な方法であると思えますが、実際に人材を確保することはハードルが高いことから、今後の検討課題とさせていただきます。</p>
6番	<p>P16 就学前教育の充実</p> <p>就学前教育といいますが、乳幼児に必要なことは何なのでしょう。一人一人の発達に応じた働きかけと、それぞれの遊びの補償だと思えます。乳幼児期はとにかく「遊び」が大切だと思えます。時間であるべく区切ることなく「あそび、あそびきること」をしてはじめて他者への意識が芽生えたり、満たされることで他への思いやりなどの「こころ」が育っていくのだと思えます。(6)のように「思いやりのある子どもを」というなら、そういう子にはどうしたら？何を補償してあげたら？とそういう記述があってもよいのではないのでしょうか。</p>	<p>ご指摘の点につきましては、一つの考え方であり、尊重されるべきであると思えます。</p> <p>町立の保育所・幼稚園では、それぞれの保育方針や教育方針に基づいた保育・教育を実践しているところです。</p>
	<p>P18 3(1) 自然を生かした教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然を生かした教育の狙いは→◎地域のよさを知る <p>◎ふるさとを愛することだけなのでしょう。</p> <p>これだけ自然に恵まれた豊かな島で、子どもたちはその自然の中で伸び伸びと過ごしているのでしょうか。幼も小も忙しい！そんなイメージがあります。就学前におべんきょうなんていりません。自由にあそび時間を！豊かな心を育てるならば、まずは豊かな体を。自然の中でもっともっと遊ぶことを保障してほしいです。</p> <p>自然の中で子どもたちの「したい」を保障することで、自然の地形の中で足腰はきたえられ（体幹教室をしなくても）、自分も自然の一部だと知り、心も体もたくましくなると思えます。そしてなにより乳幼児期に育てたいのは「自己肯定感」だと思えます。</p> <p>「あなたはあなたのままでいい」を育てるには？というような内容がもっと必要だと思いました。</p>	<p>ご指摘の点につきましては、一つの考え方であり、尊重されるべきであると思えます。</p> <p>就学前から勉強や習い事をしている子どもたちもいますが、それぞれの保護者の考え方であり、この考え方も尊重されるべきであると考えています。</p> <p>17 ページ (7) に記載しておりますが、子どもの個性を尊重した教育を推進してまいります。</p>